

表1 糞粒法によるニホンジカの生息密度（平成13～23（2001～2011）年）

対象区域	シカ保護管理メッシュ	自然再生植生タイプ	シカ下層植生	シカ保護管理	ササ被度	生息密度（頭/km <sup>2</sup> ）										
						H13（2001）	H15（2003）	H16（2004）	H17（2005）	H18（2006）	H19（2007）	H20（2008）	H21（2009）	H22（2010）	H23（2011）	
緊急対策地区	mesh-1	VII			—	-	4.6	0.6	3.8	12.9	0.9	5.3	7.1	1.5	0.9	
	mesh-2				+	-	-	4.0	9.8	13.6	5.1	12.0	13.5	20.9	0.2	
	mesh-3					2	-	-	2.7	2.3	11.0	4.1	3.5	8.5	2.4	1.3
			ササ刈り区			—	-	-	-	-	-	-	-	-	108.7	-
	mesh-5			N3	—	14.5	18.2	0.7	9.9	2.6	0.5	0.7	1.5	2.2	1.6	
	mesh-6		No.6		—	-	-	6.6	66.9	15.9	16.9	8.8	37.9	17.5	20.4	
	mesh-7		No.1	N4	5	12.9	69.7	119.9	93.2	64.6	58.0	46.1	32.7	54.0	10.8	
	mesh-9		No.5	N5	—	11.3	15.6	4.8	18.6	11.4	6.1	4.4	32.8	20.1	5.6	
	mesh-10				—	-	-	7.6	12.6	17.6	4.2	11.2	13.6	22.4	11.5	
	mesh-11	V				5	-	92.5	23.4	29.7	48.2	34.1	17.7	35.7	12.8	1.6
		VI				—	-	8.0	4.8	12.3	32.2	17.0	7.4	5.1	13.9	3.2
	mesh-12				N6	—	67.2	117.2	-	-	-	-	-	-	-	-
		I				5	-	75.4	178.9	55.3	78.0	48.7	32.2	39.4	50.5	13.0
		II				4	-	40.2	40.0	108.9	60.9	48.5	31.9	24.2	22.9	6.4
		IV				—	-	51.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	mesh-13				5	-	-	118.7	61.5	93.5	59.5	49.0	40.2	76.5	10.7	
	mesh-14	III				5	-	43.2	29.2	32.4	52.6	71.1	39.8	64.8	23.7	7.9
東大台						67.2	65.5	91.7	64.5	71.3	57.0	38.2	42.1	43.4	9.5	
西大台						12.9	34.8	17.5	25.9	23.0	14.7	11.7	18.8	25.1	5.7	
ササ有						12.9	64.2	64.6	49.1	52.8	41.1	29.0	32.4	33.0	6.5	
ササ無						31.0	35.9	4.2	22.2	15.4	7.6	6.6	16.3	12.9	7.2	
緊急対策地区平均						26.5	48.8	38.7	36.9	36.8	26.8	19.3	25.5	24.4	6.8	
重点監視地区				N7		10.5	-	-	7.9	-	13.4	16.1	7.5	15.0	5.0	
				N9		5.9	20.2	-	8.6	-	13.2	7.3	7.8	74.0	-	
				N10		16.4	-	-	16.8	-	2.1	7.9	4.0	8.9	-	
	平均						10.9	20.2	-	11.1	-	9.6	10.4	6.4	32.6	5.0
周辺地区				N1		27.6	-	-	0.6	-	-	-	-	-	2.2	
				N2		10.9	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	
				N8		0.1	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	
				M1		38.8	-	-	78.7	-	-	-	-	-	24.8	
				M2		12.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				M3		23.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
平均						18.9	-	-	26.8	-	-	-	-	9.6		
有効捕獲面積を考慮した地域のうち緊急対策地区を除く				S1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.6	
				S2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.2	
				S3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.3	
				S5		-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.2	
				S6		-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	
				S7		-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.6	
				S8		-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.9	
				S9		-	-	-	-	-	-	-	-	-	27.9	
	平均						-	-	-	-	-	-	-	-	11.6	
有効捕獲面積を考慮した地域の平均															8.5	
全平均						19.4	46.4	38.7	31.5	36.8	23.7	17.7	22.1	30.4	8.5	

- ※1 調査メッシュの単位は3次メッシュ（約1KM×1KM）である。重点監視地区及び周辺地区で使用しているN1～N10、M1～M3は、ニホンジカ保護管理計画（第1期）で設定した番号であり、Nは奈良県、Mは三重県を示している。緊急対策地区については、大台ヶ原自然再生推進計画との整合性を図るため、ニホンジカ保護管理計画（第2期）から、新たにメッシュ番号を付した。
- ※2 調査は、調査メッシュ内の任意の点で実施している。ただし、大台ヶ原自然再生推進計画（第1期）の各植生タイプ調査地点（I：ミヤコザサ型植生、II：トウヒーマヤコザサ型植生、III：トウヒークケ疎型植生、IV：トウヒークケ密型植生（平成15年（2003年）のみ実施）、V：ブナーマヤコザサ型植生、VI：ブナースズタケ疎型植生、VII：ブナースズタケ密型植生）、大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）の植生モニタリング調査地点（No.1、No.5、No.6）が含まれる調査メッシュでは、ニホンジカの生息密度が植生に与える影響を把握するために同じ調査地点で調査を実施している。
- ※3 表中でセルを黄色で示したものは前年度に比較して密度が増加したことを表す。
- ※4 旧管理地区区分は、MESH～10が西大台、MESH11～13が東である。

表 2 植生タイプとその概要

植生タイプ	相観植生	ササ種類	ササ密度	コケ密度	写真【平成 15 年(2003 年)】
I ミヤコザサ  (概要) ミヤコザサが優占する草地。東大台の正木峠から正木ヶ原にかけて広く分布している。トウヒを中心とした亜高山性針葉樹林が退行遷移した場所である。牛石ヶ原等、昭和 30 年代前半以前からミヤコザサ草地であった場所が含まれない。	ミヤコザサ群落	ミヤコザサ	密	—	
II トウヒ-ミヤコザサ  (概要) トウヒ、ウラジロモミを主体とする亜高山性針葉樹林で下層植生はミヤコザサが優占している。東大台に広く分布している。亜高山性針葉樹林が大正時代に伐採された後、天然更新により成立した樹林であると考えられる。	トウヒ群落	ミヤコザサ	密	—	
III トウヒ-コケ疎  (概要) トウヒ、コメツガを主体とする亜高山性針葉樹林で下層植生はミヤコザサが少なく、コケ類は被度が低いが覆っている。東大台の尾鷲辻付近に分布している。亜高山性針葉樹林が大正時代に伐採された後、天然更新により成立した樹林であると考えられる。	トウヒ群落	—	疎	疎	
IV トウヒ-コケ密  (概要) トウヒ、ウラジロモミを主体とする亜高山性針葉樹林で下層植生はコケ類やイトスゲに覆われている。2m以下の後継樹が少なくなっているが、かつて、東大台に広く分布していた亜高山性針葉樹林の姿に近いと考えられる貴重な群落である。中道沿いにあり、面積は少ない。	トウヒ群落	—	疎	密	
V ブナ-ミヤコザサ  (概要) ヒノキ、ウラジロモミ等の針葉樹林を混交する太平洋型のブナ林で下層植生はミヤコザサが優占している。ナゴヤ岳、大台教会、牛石ヶ原等の周辺に分布している。	ブナ-ウラジロモミ群落	ミヤコザサ	密	—	
VI ブナ-スズタケ密  (概要) ヒノキ、ウラジロモミ等の針葉樹林を混交する太平洋型のブナ林で下層植生はスズタケが優占している。西大台に広く分布していたが、ニホンジカ等の影響によりスズタケが消失してしまったため、シオカラ谷等急峻な地形の場所に残存している。	ブナ-ウラジロモミ群落	スズタケ	密	—	
VII ブナ-スズタケ疎  (概要) ヒノキ、ウラジロモミ等の針葉樹林を混交する太平洋型のブナ林で下層植生はほとんど見られない。西大台に広く分布している。かつては、スズタケ等の下層植生が見られた。	ブナ-ウラジロモミ群落	スズタケ	疎	—	

表3 下層植生調査地点（緊急対策地区）

植生タイプ	調査地点	
ミヤコザサ		I ミヤコザサ型植生 (柵外対照区)
トウヒ-ミヤコザサ (ミヤコザサ密)		II トウヒ-ミヤコザサ型植生 (柵外対照区)
トウヒ-コケ疎 (ミヤコザサ疎)		III トウヒ-コケ疎型植生 (柵外対照区)
ブナ-ミヤコザサ (ミヤコザサ密)	No. 1 ナゴヤ岳頂上付近	
ブナ-ミヤコザサ (ミヤコザサ疎)		V ブナ-ミヤコザサ型植生 (柵外対照区)
ブナ-スズタケ (スズタケ-健全)	No. 2 シオカラ谷付近	
ブナ-スズタケ密 (スズタケ密-不健全)		VI ブナ-スズタケ密型植生 (柵外対照区)
ブナ-スズタケ (スズタケ-矮化)	No. 3 松浦武四郎碑付近	
ブナ-スズタケ疎 (スズタケ消失ミヤマシキミ)		VII ブナ-スズタケ疎型植生 (柵外対照区)
ブナ-ツクシシクナゲ (低木層ツクシシクナゲ)	No. 4 巴岳付近	
トチノキーサワグルミ群落 (平坦地)	No. 5 逆峠付近	
トチノキーサワグルミ群落 (傾斜地)	No. 6 大和谷付近	
テンニンソウ群落	No. 7 ナゴヤ谷付近	

※地点 No. 1～7 : ニホンジカ保護管理計画に基づく植生調査地点  
ローマ数字 : 自然再生推進計画調査地点(柵外対照区)

表4 植生保全対策による実生の種別最大高

平成 23 (2011) 年 9~10 月調査結果

単位 : cm

	種名	I			II		III		IV	V		VI		VII			
		既設柵内	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外		
林冠構成種	針葉樹	トウヒ		78.0		12.7		12.0	8.0	20.0							
		ウラジロモミ						14.0	9.0	10.0	3.9	10.0	3.2	4.3	29.2	9.2	
		ヒノキ				9.4		10.0	8.0	14.0		4.3		4.4	20.1	4.6	
		コメツガ							4.0								
		ヒメコマツ						7.0									
	広葉樹	ブナ										7.5			33.5	12.6	
		ミズナラ						16.0	14.0		24.1	5.0					
		カエデ属	8.0														
		ミズメ							3.0			5.0					
		コバノトネリコ		55.0			13.2	10.0	11.0	8.0	18.5	8.5			47.0	4.4	
		ハリギリ		29.0				20.0	3.0						31.2	1.3	
		シナノキ										6.5			4.6		
		アオハダ							6.0	2.0					65.0	6.2	
		キハダ							3.0								
		ヒコサンヒメシャラ		55.0													
		ヒメシャラ類の一種													13.2	7.8	
		その他の種	イチイ													23.2	6.1
			アズキナシ													16.2	
			カマツカ					8.6	16.0	7.0	22.0					19.8	
コシアブラ						5.4		7.0			8.7	10.1	8.2	14.1			
ゴヨウツツジ			16.0				14.0	6.0									
サラサドウダン												2.6	12.1				
サルナシ							3.0										
タラノキ	30.0		240.0											7.7	10.1	2.2	
ツツジsp.									7.0								
ナナカマド				10.0			20.0	8.0	6.0		4.5						
マツブサ														6.5			
マンサク									11.0			3.9					
リョウブ							60.0	7.0	60.0			20.5	7.3	57.5	5.7		
コアジサイ														5.2			
タンナサワフタギ				20.0							7.0	1.8	14.4	31.5			
ツクバネウツギ									4.0								
フウリンウメモドキ						8.0				8.0	3.4			3.7			
ミヤマガマズミ													11.1				
ミヤマシキミ		20.0						18.0		33.5	25.0		56.2	37.4			
ヤマアジサイ		50.0															

※林床植生調査区 4 m × 9 個の最高値を示した。

表5 大台ヶ原における植生保全対策事業一覧

(金額:(千円))

	剥皮防止ネット				防鹿柵			備考		
	新規巻付(本)	まき直し(本)	計(本)	金額	注	数量(ha)	金額		注	
S62年度						0.03			防鹿柵はH3に再編	
						0.01	1,940	(*1*2)		
63						0.04	1,930	(*1*2)	吊橋1基(20m2)・歩道改良1,300m	
H元年度						0.21	1,811	(*3)		
2						0.22	1,955	(*3)		
3	50		50		(*2)	0.30	1,954	(*2*3)	奈良県施行委任<ビジターセンター>	
4	250		250		(*2)	0.19	2,190	(*2*3)		
5			0			0.32	815	(*3)		
6	2,050		2,050	3,803					奈良県施行委任<歩道>(石積、石張等)	
7	2,290		2,290	3,500		0.88	900		奈良県施行委任<歩道>(石積、丸太柵等)	
8	2,145		2,145	2,679		1.71	3,168			
9	2,130		2,130	303		1.68	6,215			
10	1,877		1,877	251		3.78	5,895		奈良県施行委任<テラス>	
11	4,000		4,000	5,534		0.02	3,402		奈良県施行委任<木道、四阿>	
12	4,000		4,000	5,659		3.58	91,000		奈良県施行委任<防鹿柵、ビジターセンター>	
13	2,915		2,915	5,208		2.71	85,324		奈良県施行委任<ビジターセンター>	
14	3,023		3,023	5,796		8.23	131,250		奈良県施行委任<展望台>	
15	3,000		3,000	6,003		14.71	185,430		奈良県施行委任<立入防止柵、歩道(石積等)>	
16	2,500		2,500	-		4.00	50,211			
17	3,000		3,000	5,985		6.53	93,998		奈良県施行委任<防鹿柵>	
18	0		0			3.03	97,125		奈良県施行委任<防鹿柵>	
19	799	974	1,773	2,100		5.48	89,250		奈良県施行委任<防鹿柵>	
20	1,315	2,899	4,214	3,460		6.15	49,980		奈良県施行委任<防鹿柵>	
21	1,135	880	2,015	4,463		2.13	48,090		奈良県施行委任<防鹿柵>	
22	580	1,370	1,950	5,793		0.95	20,475		奈良県施行委任<防鹿柵>	
23	1,250	1,250	2,500	8,059		1.18	23,793		奈良県施行委任<防鹿柵>	
計	38,309	7,373	45,682	68,596		68.07	998,101			
	防鹿柵撤去分控除数量						59.01			

\*1: 昭和63年度第4回大台ヶ原地区トウヒ森林保全対策検討会資料より

\*2: 事業費は他との合計金額

\*3: 予定価格とされる金額

防鹿柵数量赤字は撤去済み